



北海道版 366号

2012年9月15日

発行 日本平和委員会

1950年12月16日第3種郵便物認可

編集 北海道平和委員会

札幌市北区北6条西6丁目 第3山崎ビル 電話 Fax011 (737) 7637 番 Fax011 (737) 7711 番

平和委員会の存在感をかけて運動を！

日平全国常任理事会（9月1、2日）に出席して…石田理事長

怒りにみちあふれる日本列島。社会保障削減・消費税増税、原発再稼働、政治崩壊・劣化、オスプレイ押しつけ、軍事強化路線、改憲路線など。平和勢力として選挙課題です。

日米一体化、有事法制、集団的自衛権、憲法改正などを提言したアミテージ報告1、2。8月にアミテージ報告3がでた。原発とTPP推進を提言。政治、経済、軍事、原発、みんな日米安保が根源にある。安保破棄こそ日本国民のテーマ。

沖縄に連帯し、あらゆるところで、安保・憲法学習をしよう。日本平和大会に結集し18000名の会員拡大を築こう。「平和の共同で一致していくこと」に平和委員会の存在感をかけて運動をひろげよう。と呼びかけました。

（常任理事会が提起した詳しい決定は平和新聞（9月15日号）を参照）

常任理事会に初めて青年委員会として渡辺詩織さんが参加、常任理事会で注目の的に。（「平和運動」8月号ピースメッセージに、渡辺さんの「祖父の戦争体験の話について」のエッセイが載っています、是非読んでください）

日本平和大会に参加を！ 代表を送ろう！

日本平和大会（東京）11月23～25日はフィールドワークが9つもある、ユニークな日本平和大会。百聞に一見にしかず。是非、道内各地から参加を検討してください。矢白別平和委員会は、吉野宣和事務局長・渡辺佐知子さんの派遣を決めています。

大いに学び、大いに食べた

= 9回長沼平和ツアー =

「自衛隊は憲法違反」明確に判断した9月7日の長沼一審判決から39周年を記念し、9月8日長沼平和ツアーが行われ15人が参加しました。札幌駅をバスで出発、車中は内山代表理事による長沼訴訟に至る経緯の学習。長沼町役場前・吉川鐵之助像では山本玉樹さんが、

現地では藪田亨・長沼平和委員長（町議）と作家・加藤多一さんが講義しました。

以下は、初参加・横倉さんのレポートです。

キリスト者平和の会・平和委員会主催の長沼ツアー、毎年恒例の行事と聞いていましたが、今回初めて参加しました。

ツアーの主目的は野呂栄太郎の碑の見学と馬追山の航空自衛隊のナイキ基地



= 野呂栄太郎碑の前で、横断幕は山本玉樹さん(84)の力作 =

野呂栄太郎の生家も農家であった。父親は米の増産に研究熱心であったし、両親ともに子供たちの教育にも熱心であったとのこと。

地元ガイドの藪田亨さん、長沼の人たちはこの偉大な経済学者を誇りに思っていると説明にも力が入ります。

それから、福島判決から来年でもう40年になるという。40数年前、馬追山に航空自衛隊の基地ができると知った地元の人たちは、山の林を切ることで山の保水力が失われ、長沼の町は大雨になると直ちに洪水になる、長沼の農産物が壊滅的打撃を受けるとして、町民たちが札幌地裁に裁判を起こした。

札幌地裁の福島重雄裁判官は、裁判官の独立を頑なに守り抜き、画期的な違憲判決を下した。あれから40年にもなるのですね。

福島判決は、特に立法権をチェックできる違憲立法審査権がほとんど行使されることがない歴史の中で、ひとときわ光を放っているのです。

そして、最後は、藪田さん宅の前庭で「焼肉パーティ」。藪田さんの所の新鮮な野菜も焼いてみんなお腹いっぱいいただきました。

そのほか、長沼在住の加藤多一さんも長沼を語ってくれました。「知恵袋」と思われている方々が参加されていました。この次は、もっと時間をかけて、いろいろな方から「長沼について」聞きたいものです。（大通平和委員会 横倉友子）

の見学（ゲートの何百m先の地点から）でしたが、いずれのテーマも「長沼という土地の理解」がキーポイント。

長沼町を夕張川、千歳川などいくつもの川が流れ、しかも低地のせい昔からよく洪水に見舞われたが、その分土地は肥沃であった。長沼が早くから農業が盛んであったのはそういう土地であったからだ。

“市電・走れ平和号” “赤紙配り”

＝今年も多彩にさっぽろ平和行動＝

日本国憲法第 9 条を守り、核も基地もない原発ゼロの日本へ！と、今年も第 32 回さっぽろ平和行動（同実行委員会主催）が取り組まれました。15 日は恒例の反戦街頭宣伝行動・赤紙配りが札幌市内パルコ前で行われ、道行く市民に戦時の召集令状（赤紙）の写しを 1000 枚配りました。広島で被爆した松本郁子さんが、時々声をつまらせながらも被爆当時の話をし、平和の尊さを訴えました。

市電を貸し切った「8・15 走れ平和号」には、車内に被爆の悲惨さを伝える原爆パネル（日本被団協制作・30 枚組）をはじめ、新婦人各班からの平和への願いを込めた絵手紙や折り鶴などを賑やかに展示しました。車内では広島で被爆した金子廣子さんが、広島で生まれたから父親が廣子と名付けたと話し出し、「病院に行った時に医師に“原爆にあった”と話したら“それがどうしたの”と言われた。それ以来原爆のことは話さなくなった」と、また「夫には子供が生まれる時に、生まれる子供のことが心配で、やっと被爆者だと打ち明けた」と、この 60 年以上どんな思いで生きてきたかを話しました。金子廣子さんは、自分の病気を原爆症と認めて欲しいと提訴した北海道原爆訴訟の原告で、今、語り部を始めています。広島で行われた原水爆禁止世界大会に参加した長谷聡子さん（北海道民青）が感想と決意を語り、北海道合唱団と一緒に平和のうたごえが車内に響きわたりました。お盆で帰省していた青年（24 歳）は「貴重な体験です。戦争をなくするために世界で取り組むことが大事ですね」と感想を話しました。

休憩の市電車庫内には降雪時のラッセル車もあり、子供たちが珍しそうに見ていました。原爆パネルを見て「厚別区ではもう原爆展やったよ」と声が出ると、それに呼応して「中央区はこれから」と交流が深まりました。「小さい子供連れの母親や親子 3 代で参加している方もいて、子供たちに核兵器も原発もない世界をとの決意を新たにしました。（道平理事・原水協 嶋田千鶴子）

Ps:道・札幌平和委員会も実行委に加盟していますが、行動へ具体的・組織的に取り組めていないのが現状（常任理事会でも指摘あり）、今後の課題です。（s）

富良野方面で 26 普連が夜間、公道を武装行軍

陸上自衛隊第 2 師団（司令部・旭川市）所属の第 26 普通科連隊の隊員約 100 名が 9 月 5 日、上富良野町の陸上自衛隊上富良野演習場を出発し、中富良野町、富良野市と 1 市 2 町にまたがる広範囲を夜間武装行軍しました。

同連隊の公道武装行軍は 7 月に続き 2 度目。今回は夕闇迫る午後 6 時過ぎに演

習場を出発。夕景も美しい観光客に人気の高台やラベンダー園、「原始の泉」な



＝行軍隊列に続きゆっくり走行する車両＝

旭川平和委員会は現地で監視行動に取り組みました。監視行動参加者は「観光道路を走っていると夕闇から突然小銃で武装した隊員が歩いてくる姿は不安や恐怖感をかきたてます。行軍が行われたのは市街地ではありませんが、やはりこのような訓練は公道で行うべきではありません」と話しています。

（旭川平和委・由井久志＝ブログから転載）

秋は、“安保”の学習を 札幌南区革新懇で内山代表理事講演

札幌の南区革新懇は 9 月 9 日、第 1 2 回総会を開き、記念講演会として、道平和委の内山博代表理事による記念講演「安保をなくせば、どんな情勢の展望が開かれるか」を 20 人余の参加者が聞きました。

内山さんは、全国革新懇総会（5 月 1 2 日）での日本共産党・志位和夫委員長との記念講演録『日米安保条約をなくしたらどうなるか』と、元外務省条約局長・孫崎享氏の『戦後史の正体』（創玄社）、日本平和大会パンフ『日米安保 なくせばこうなる!!』をテキストに、一時間半にわたり講義しました。

孫崎氏の本から、歴代総理は対米従属路線と自主路線があり、典型的対米従属は吉田茂。自主路線には芦田、田中、竹下、橋本、小沢がいるが、いずれもアメリカによって作られた検察庁によって政治的に葬られてきた、という権力の内側からの証言を紹介。続いて、安保をなくせば米軍基地の重圧から開放される、と具体的事実をもって話したところ、熱心な質問が相次ぎ、総会の時間に食い込んでしまうほど。持参した、平和大会パンフ 20 冊と矢白別平和委の「矢白別の里から」5 冊は完売、買えない人にお詫びする失態を演じました。道平は急遽「平和大会パンフ」を 100 冊追加注文。学習の需要はあります。ぜひ活用下さい。